

## 町指定文化財

### 【考古資料】 霊山碑



（樂翁 松平定信侯家額藩備廣瀬典接並に書）  
 靈山は伊達郡大石村に在り、天地初めて陶し山川形を結で此の奇秀を生ず、  
 命して以て靈山となす、而るに此に棄損して退厥顧みざるもの何ぞ、それ先  
 に興ひて、後に奪ふものならざらんや、建武の頃北畠顯家、義兵を擁して是  
 の墟を保ち、屢々挫折し、復ふ振ふ、然る後山因つて顯る、顯家の忠誠靈  
 國其の隠伏を顯すに足る、而も蒼生をして心を南朝に歸向せしむる能はざる  
 もの、何ぞ其れ物を得て、人を失ふと云ふべし、而して今其の時を去る四百  
 年人忠孝を重じ、風俗義を尚び、農人商夫猶ほ山を指して故事を説く、顯家  
 生ては奥羽を以て根據と為し身は泉州に死すといひども、魂魄反て常に此の  
 山に在るが如し、村民碑を樹て、酒食を以て山靈と人神とを記る、盼雙來り  
 食し其れ斯民を祚するや必せり、然り則ち相得て、顯著なる者、將に以て愈々  
 久遠を極めんとする也  
 文化十四年八月

碑文（原文は漢字）

文化14年（1817年）10月、  
 白河藩主松平樂翁（定信）公に  
 よって建立されたものである。

松平樂翁の題額、儒臣広瀬  
 典の撰並びに書により南朝の  
 忠臣北畠顯家卿の忠節をたた  
 えた顕彰碑である。松平樂翁公  
 編集によるわが国考古学資料  
 として貴重な文献とされる「集  
 古十種」にも所蔵されており、  
 「靈山」が史跡として紹介され  
 た最初のものである。

高さ147cm、幅84cm、厚さ30cm

指定日 昭和57年7月15日  
 所在地 靈山町大字大石字  
 宮脇86番地（日枝神  
 社境内）  
 所有者 日枝神社

## 町指定文化財

### 【考古資料】 元徳供養石塔外



〔左端の銘板碑文〕  
 光明遍照 右志者為先考亡魂  
 十方世界 孝子  
 念佛衆生 元徳三年三月廿二日  
 往生極樂法界衆生也 敬白

7基あるうち、左端の銘板碑（縦161cm・横122cm・厚さ24cm）は、元徳3年（1331年）3月22日に建てられた供養塔。松平樂翁（定信）の「集古十種」碑銘12に所載されている著名なもの。これら7基の供養石塔がもともとどこに建立されたのかは不明。阿弥陀信仰による極樂浄土へ往生するという願いが伝わってきます。

指定日 昭和57年7月15日 所在地 靈山町大字大石字倉波13番地 所有者 靈山寺（天台宗）

集古十種〔しゅうこじっしゆ〕とは…

白河藩主だった松平定信は、老中として寛政の改革をおこなった政治家であると同時に、当時一流の文化人でもあった。

その定信が中心となって編集したものが「集古十種」という本で甲冑、碑銘、樂器、肖像など様々な（種）類の（古）いモノを（集）めた全85冊の古文化財図録